

上牧町の町勢について

The natural features of Kanmaki Town

目次

01 地勢について

地勢的な観点から検証を行うに当たり、「地勢」に関する説明を行います。

02 位置・地形・気候について

「位置」「地形」「気候」といった基本的に変化することがない事項について、確認を行います。

03 交通・商業・住宅について

「交通」「商業」「住宅」といった人工的につくられたもので、変化する事項について確認を行います。

04 地区別総括

各項目の状況について、地区別に状況を整理します。

AGENDA

01 地勢について

「地勢」とは

地勢とは土地の概況のことで、土地の自然環境と人工的な改変を含めた総合的な状態を指し、地形・水系・植生・交通網・集落などの要素によって構成されるものです。

国土地理院が刊行している20万分の1の基本図は、比較的広域を対象とする土地及び土地資源の利用開発、土地に関する調査・研究計画等の広範な用途に供することができるよう作成されており、地勢図という名称が与えられています。

当検証における確認事項について

当検証における確認事項については、自然環境に関するものと人工的な改変によって生まれるものに分類することとし、分類ごとの確認事項は以下のとおりとします。

自然環境に関するもの

- 「位置」 上牧町の位置、学校の位置
- 「地形」 上牧町（各校区）の地形
- 「気候」 上牧町の気候

人工的な改変によるもの

- 「交通」 交通量や公共交通機関の整備状況など
- 「商業」 事業所数や規模など
- 「住宅」 住宅の整備状況など

02 位置・地形・気候について

上牧町の位置

上牧町は奈良盆地の西部に位置し、馬見丘陵の西端を流れる葛下川の東岸に沿い、町の中央部は東経135度43分20秒、北緯34度33分40秒にあります。

町の区域は、東西2.1km、南北3.6kmのほぼ長方形で、総面積は6.14km²となっています。北は王寺町、北東は河合町と接しており、南は一部広陵町、西は葛下川を挟んで香芝市と隣接しています。小学校区（大字）ごとの区域は右の地図のとおりです。

検討のポイント

- 教育施設の配置バランス
- コンパクトシティ（立地適正化）の推進



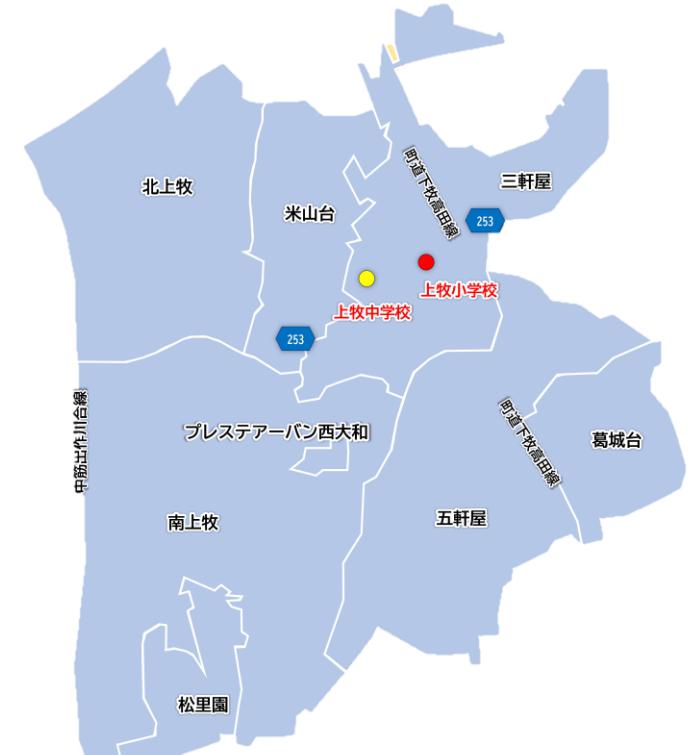
02 位置・地形・気候について

上牧小学校区の位置

上牧小学校区は上牧町の南部に位置しています。人口減少や少子高齢化に対応した立地適正化が推進されるなか、上牧町役場に隣接している上牧小学校については、すでに都市機能のまとまりのなかにあり、立地面の観点では廃校にふさわしい学校ではないと考えられます。

また、現在新築している上牧中学校とも隣接しており、将来的に小中一貫校や義務教育学校の設置を検討する際にも、立地面で優位性があります。その他、

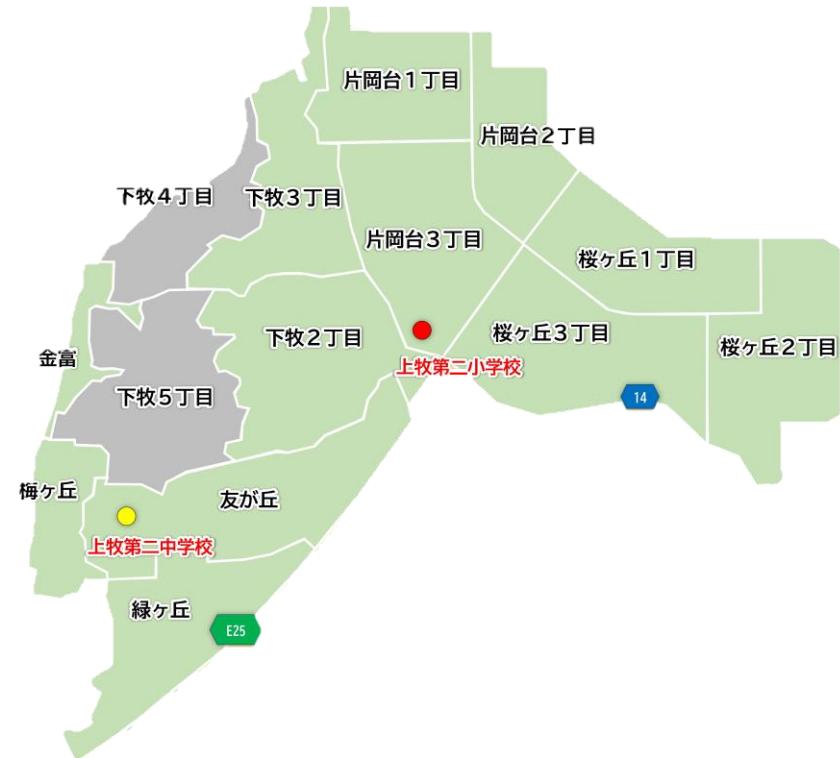
「教育委員会事務局を置いている上牧町役場（西館）とも隣接しており、連携が取りやすいという利点もあります。



02 位置・地形・気候について

上牧第二小学校区の位置

上牧第二小学校区は上牧町の北部に位置しています。現行計画のとおり、統廃合により3校ある小学校を2校にし、存続する1校を上牧小学校とする場合、南北に長い上牧町において、教育施設の配置バランスの観点に立つと、残るもう1校については、上牧第三小学校より上牧第二小学校に優位性があると考えられます。



02 位置・地形・気候について

上牧第三小学校区の位置

上牧第三小学校区は上牧町の中央部に位置しています。統廃合により小学校を1校とする場合、立地適正化の観点では、上牧小学校に次いで残す候補であると考えられます。しかし、存続する小学校を2校とし、そのうちの1校を上牧小学校が存続する場合において、残るもう1校としては、上牧第二小学校より優位性で劣ると思われます。



02 位置・地形・気候について

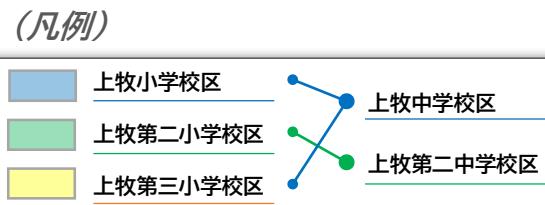
上牧町の地形

上牧町の地形は、馬見丘陵の小起伏地帯に属し、**大きくは丘陵地（台地部）、低地部の2つに分けることができます。**

上牧町の西境には葛下川が北流し、その沿岸に低地がみられます。また、町の中央部を滝川が北流し、その本流沿岸が谷底低地となっています。他の大部分は丘陵地・台地であり、滝川の支流や上流部は丘陵を刻む樹枝状の小さな谷となっています。

検討のポイント

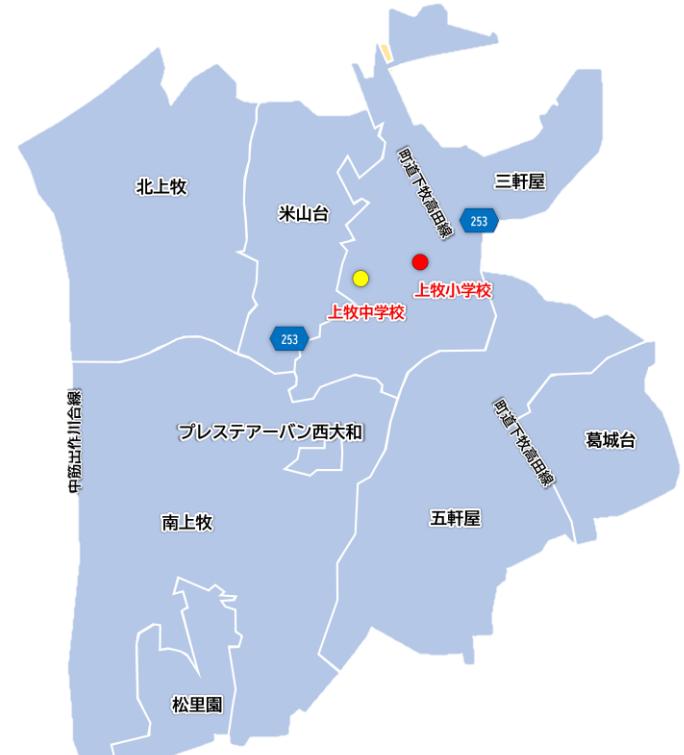
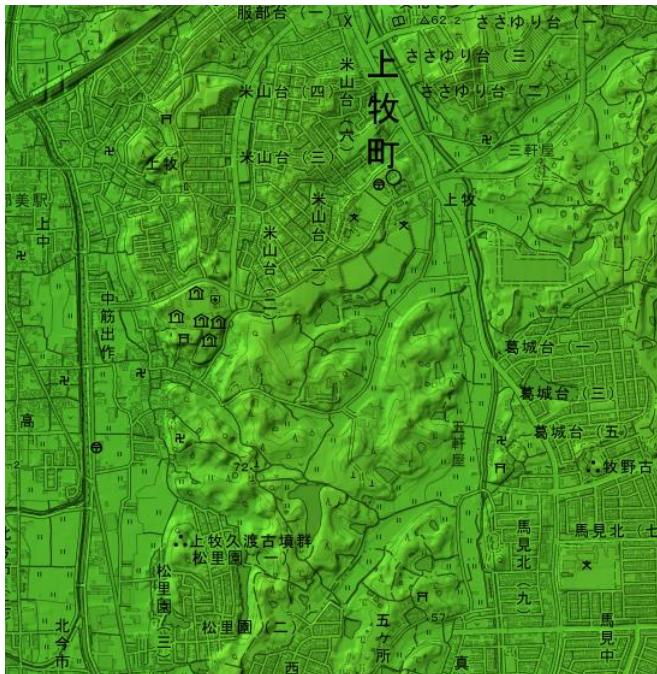
- 通学負担への考慮
- 安全面に対する課題



02 位置・地形・気候について

上牧小学校区の地形

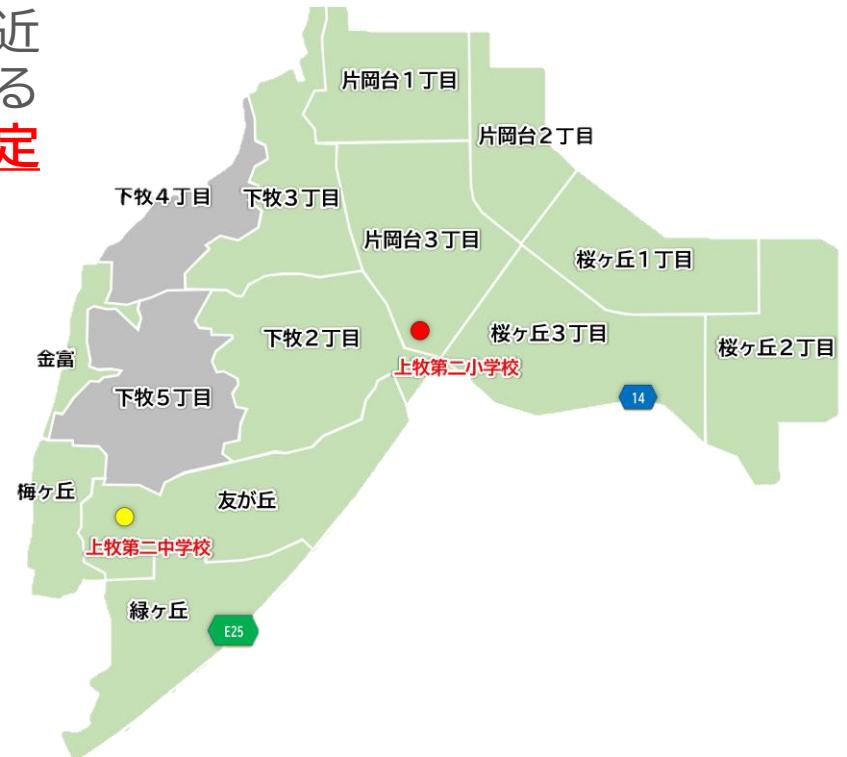
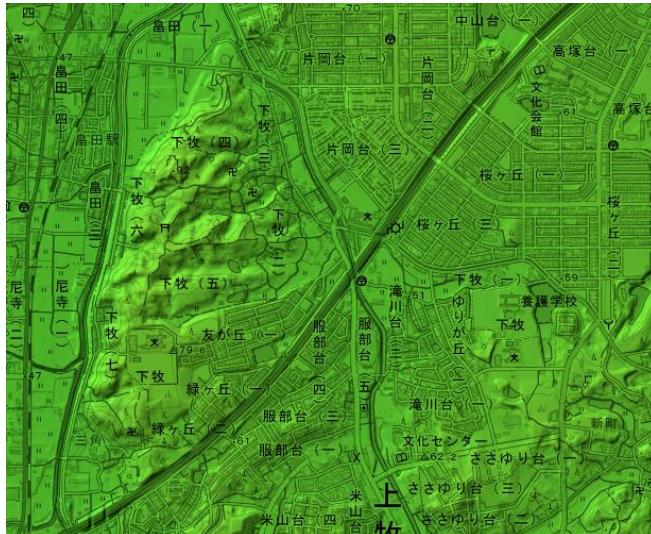
葛城台・三軒屋地区を除き、**全般的には起伏が大きく**、統合により通学距離が延びる場合、通学負担が懸念されます。



02 位置・地形・気候について

上牧第二小学校区の地形

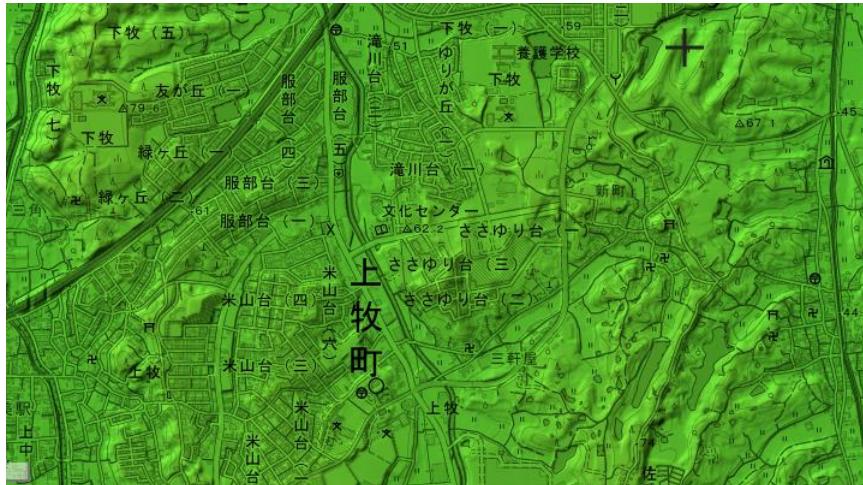
友が丘・緑ヶ丘・下牧地区は起伏が大きく、統合により通学距離が伸びた場合、通学負担が懸念されます。金富・梅ヶ丘地区については、山に近接していますが、統合により学校の位置が変わることは、起伏の影響を受けない通学路設定も想定されます。



02 位置・地形・気候について

上牧第三小学校区の地形

服部台地区については、やや起伏がありますが、その他の地区についても起伏はあるものの、**通学負担に影響を及ぼすほどのものではない**と考えます。



02 位置・地形・気候について

上牧町の気候

上牧町は奈良盆地の西部にあり、年平均気温は15°C程度と総じて温暖ですが、近畿中部の内陸に位置しているため、最暖月平均26.9°C、最寒月平均3.9°Cと季節による寒暖に差が多少大きくなっています。

また、年間降水量は平均1,300mm程度であり、県南部の山岳地帯と比較すると相対的に少ないですが、梅雨期の6~7月と台風期の9月に降水量が集中します。

検討のポイント

- 統合した場合の通学距離と時間の延伸
- 夏季の気温（湿度）と健康リスク

(凡例)



02 位置・地形・気候について

上牧小学校区の気候と統合した場合の延伸距離

統合により上牧第三小学校に通学する場合、松里園地区の児童の通学距離は約3.5kmとなり、国が示す通学距離の基準上限に迫ります。また、道中の起伏もあり、通学負担は非常に大きなものになると思われます。

また、通学時間についても、低学年の場合、1時間以上要する可能性もあり、特に夏季の下校時は35°Cに迫る日もあり、熱中症のリスクが非常に高くなることが想定されます。



(写真) 松里園地区



02 位置・地形・気候について

上牧第二小学校区の気候と統合した場合の延伸距離

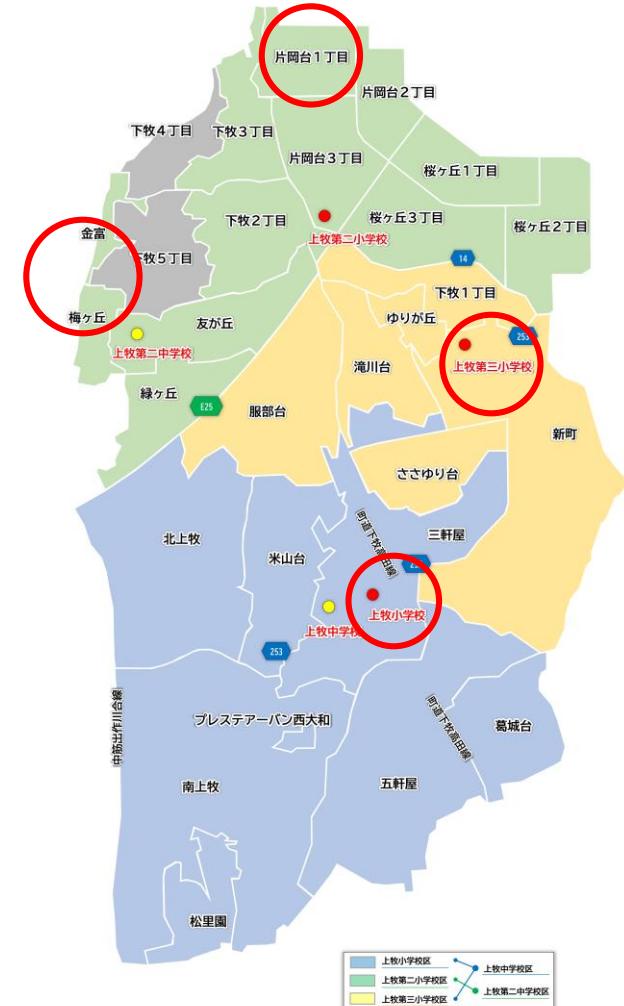
統合により上牧小学校に通学する場合、片岡台地区の児童の通学距離は約3kmと国が示す通学基準の範囲内ではありますが、通学負担の増大は避けられません。

また、上牧第三小学校に通学する場合の通学距離は、金富・梅ヶ丘地区も含め全地区において2.5km以内となっており、大きな負担増には至りません。

夏季の登下校に当たっては、熱中症リスクが懸念されますが、上牧第三小学校に通学する場合、上牧小学校区の最も通学距離を要する地区より通学距離は短く、許容範囲内であると思われます。



(写真) 友が丘地区



02 位置・地形・気候について

上牧第三小学校区の気候と統合した場合の延伸距離

統合により上牧小学校に通学する場合、下牧1丁目地区が最も通学距離を要する地区となりますが、上牧小学校区内で最も通学距離を要する松里園地区（約2.5km）より通学負担は少なく、徒步通学の許容範囲と考えます。

また、上牧第二小学校に通学する場合においても、概ね2km圏内であり、徒歩通学の許容範囲であると考えます。夏季の登下校に当たっては、熱中症リスクが懸念されますが、地区によって通学距離は変わるもの、全体としては現状と大きな変化はありません。



(写真) 下牧1丁目地区



03 交通・商業・住宅について

上牧町の交通体系

鉄道

J R 和歌山線「志都美」駅（香芝市） 上牧町役場から徒歩25分程度

J R 大和路線「王寺」駅（王寺町） 上牧町役場から奈良交通バスで15分程度

近鉄大阪線「五位堂」駅（香芝市） 上牧町役場から奈良交通バスで10分程度

※ 町内なし。

バス

奈良交通バス（各系統）

コミュニティバス（ペガサス号・ささゆり号・ほほ笑み号）

検討のポイント

- ・通学時間帯に運行している公共交通バスがあるか
- ・バスの停留所までの距離
- ・小学生のバス通学の実現可能性

※ 鉄道は考慮しない。コミュニティバスも通学時間帯に運行していないため、考慮しない。

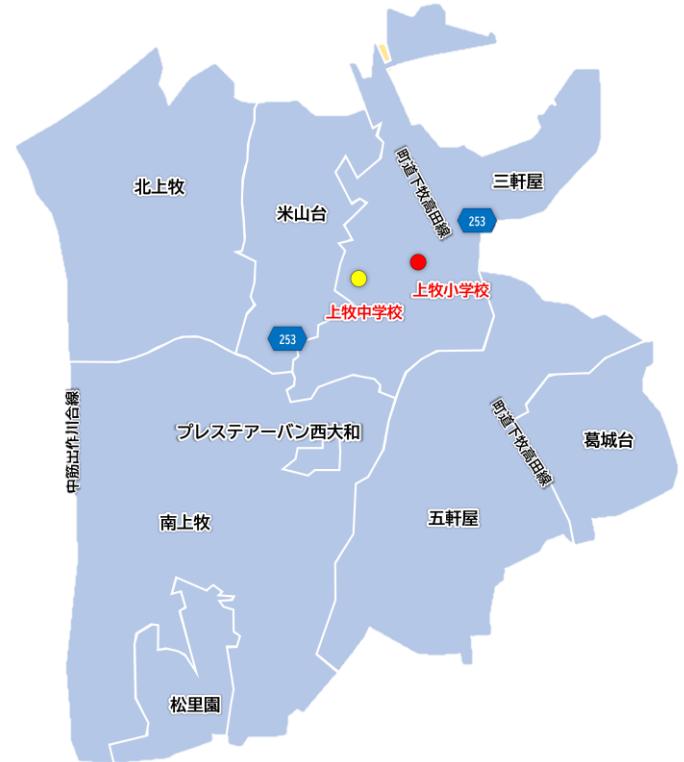
03 交通・商業・住宅について

上牧小学校区の交通網

バスの停留所（服部記念病院前・米山台・上牧町役場・上牧出合）のうち、服部記念病院前及び米山台については、運行しているバスの本数が少なく、通学時間帯の利用は難しい状況です。



（写真）米山台バス停



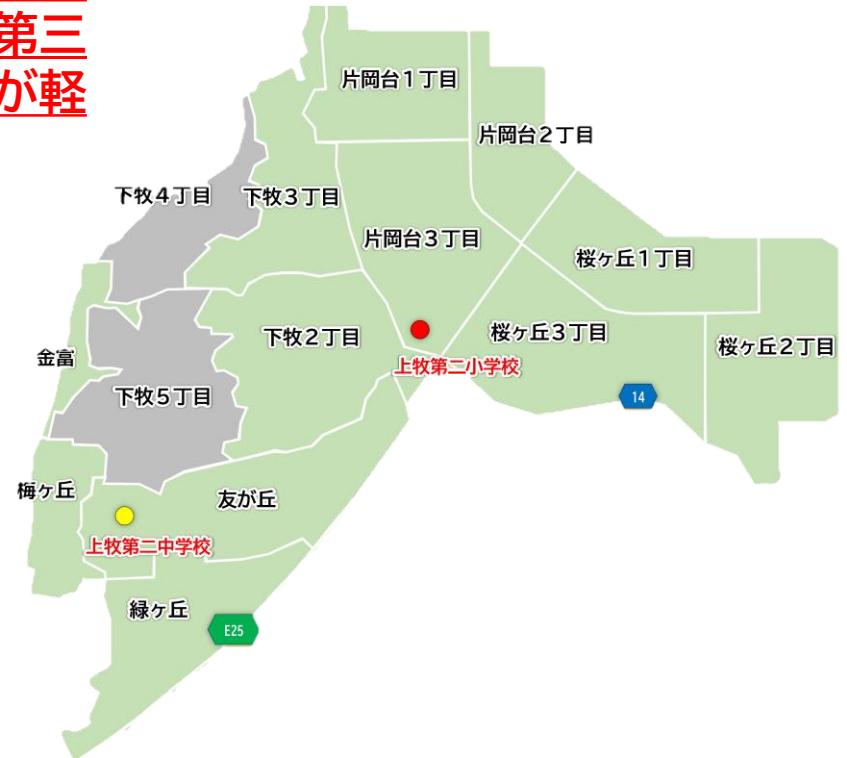
03 交通・商業・住宅について

上牧第二小学校区の交通網

統合した場合、現在の上牧小学校・上牧第三小学校のいずれの位置になったとしても、奈良交通バスを利用することは可能な地区です。また、上牧第三小学校に通学する場合は、現在よりも通学負担が軽くなる地区もあります。



(写真) 下牧南口バス停



03 交通・商業・住宅について

上牧第三小学校区の交通網

奈良交通バスを利用することは可能な地区です。ただし、バスの停留所（ラスパ西大和・上牧町文化センター前・服部）のうち、ラスパ西大和は通学時間帯の運行がないため、利用することはできません。また、上牧小学校と上牧第二小学校の中間に位置しているため、バス利用のメリットも小さいと思われます。



(写真) 上牧町文化センター前バス停



03 交通・商業・住宅について

上牧町の商業

上牧町内には400以上の事業所があり、全体的には減少傾向にあります、町の規模や面積を考えると依然として多く、個人商店などの小規模事業所が中心ではありますが、1事業所当たりの従業員数も県内上位となっています。

事業所の主な業種は小売業となっており、特にラスパ西大和やディオ上牧店、来年出店予定のトライアル西大和店など大型商業施設が多く、そのほとんどが町の中心地に集中しています。

検討のポイント

- ・ 学校がなくなることによる影響度（地域が衰退する恐れ）
- ・ 跡地利用のしやすさ

03 交通・商業・住宅について

上牧小学校区の商業

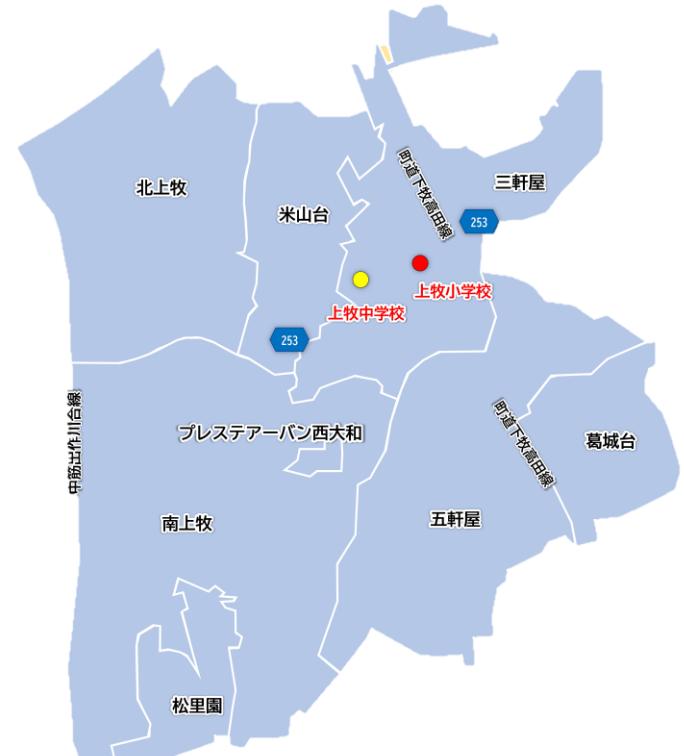
事業所はありますが、すでに衰退が懸念されている状況です。学校がなくなることで、さらに衰退が加速する恐れがありますが、影響度合いは小規模であると思われます。

跡地利用について

上牧町の中心地にあり、一見立地はいいですが、
市街化調整区域であるため、
跡地利用に当たっては、売却等も円滑に進まないことが予想されます。



(写真) 下牧高田線沿いの商業施設



03 交通・商業・住宅について

上牧第二小学校区の商業

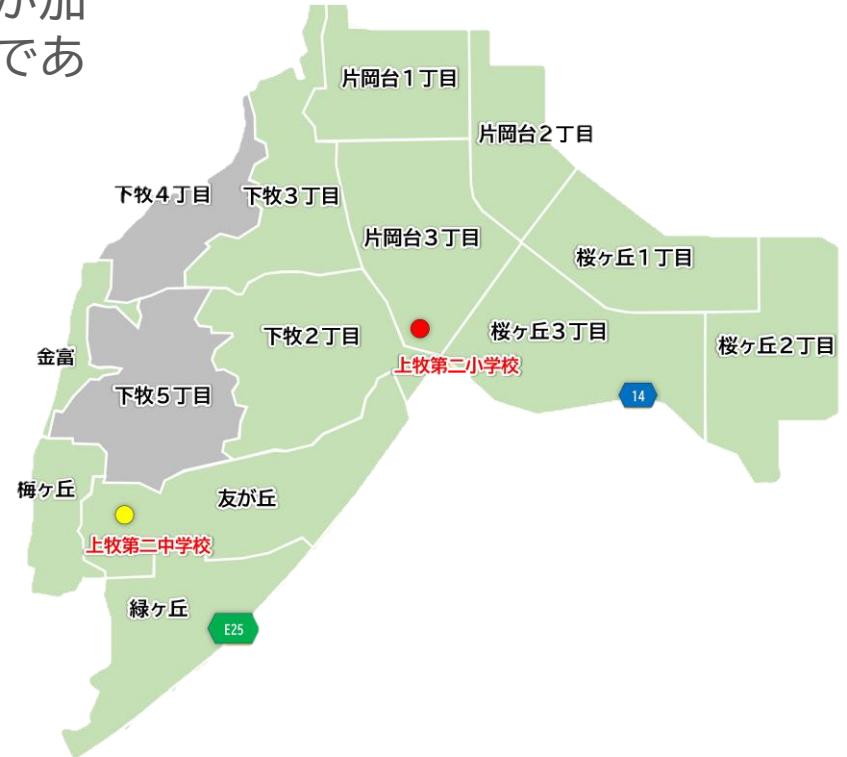
上牧小学校区同様、すでに衰退が懸念されている状況です。学校がなくなることで、さらに衰退が加速する恐れがありますが、影響度合いは小規模であると思われます。

跡地利用について

跡地利用については、市街化区域のため、
上牧小学校と比べると検討を進めやすい
と思われます。



(写真) 片岡台地区の商業施設



03 交通・商業・住宅について

上牧第三小学校区の商業

事業所数も多く、直近でも新規出店も目立つ状況です。学校がなくなることで、影響を受ける可能性が最も大きい地区であると思われます。

跡地利用について

跡地利用については、立地や建築年数等においては優位性がありますが、市街化調整区域であるため、一定の制限はかかるものと思われます。



(写真) ささゆり台地区の商業施設



03 交通・商業・住宅について

上牧町の住宅

上牧町は大阪都市圏のベッドタウンとして、昭和40年代から急激に人口を伸ばし、発展してきました。平成17年には人口25,000人を超える、最盛期を迎えたが、それ以降は人口減少・少子高齢化が進展しており、令和7年10月時点では、21,000人を割り込んでいます。一部地域では住宅開発も行われているものの、全体的な人口減少には歯止めがかかっていない状況となっています。

検討のポイント

- 学校がなくなることによる影響度（人口減少・少子化）

03 交通・商業・住宅について

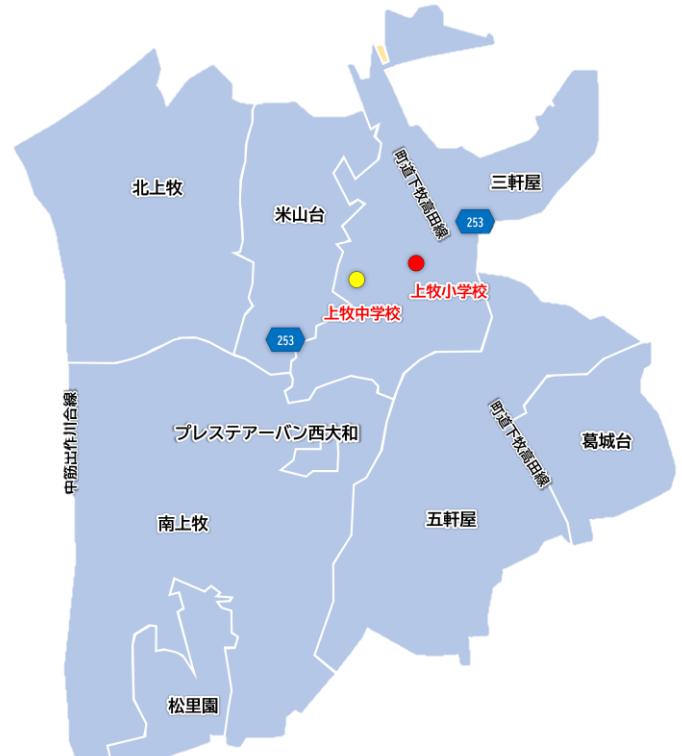
上牧小学校区の住宅

旧村（南上牧・北上牧・三軒屋・五軒屋）地区、葛城台、プレステアーバン西大和、松里園、米山台のいずれの地区も、住宅地としては衰退が進んでいます。

統合により学校がなくなることで、さらに加速する恐れもありますが、影響度合いはそれほど大きくないと思われます。



(写真) 葛城台地区の住宅地



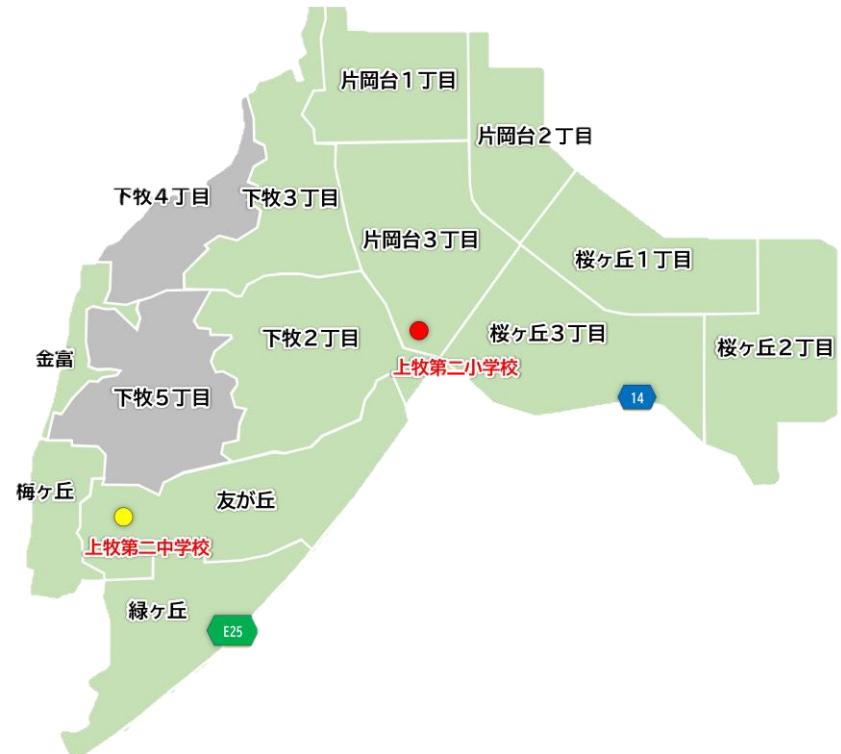
03 交通・商業・住宅について

上牧第二小学校区の住宅

昭和40年代に発展したニュータウン（片岡台・桜ヶ丘地区）は近年衰退が目立っていたが、ここ数年は人口減少が緩やかになっています。特に桜ヶ丘地区は住宅開発もあり、年少人口・生産年齢人口が増加傾向にあります。また、この地区にはUR住宅があり、学校が存続するか否かで、今後の整備方針に大きく影響する可能性があり、統合により廃校することで、住宅地として大きく衰退する恐れがあります。



(写真) 片岡台地区の住宅地



03 交通・商業・住宅について

上牧第三小学校区の住宅

上牧第三小学校は、最も新しい学校で、グラウンドが芝生化されているなど、**教育環境面が校区内で住宅開発に好影響**を与えた経緯があります。

学校がなくなったとしても、すぐさま住宅地として衰退することはないと思われますが、住宅地としての発展が阻害される恐れがあります。



(写真) ささゆり台地区の住宅地



04 地区別総括

上牧小学校区

検討ポイント	状況
位置	<ul style="list-style-type: none">立地適正化の観点では、他の2校に比べ優位性は高い。中学校や教育委員会とも隣接しており、連携がとりやすい。
地形	<ul style="list-style-type: none">葛城台・五軒家地区を除き、全体的に起伏が大きい。
気候・延伸距離	<ul style="list-style-type: none">松里園地区から他校に通学する場合、通学距離が片道約3.5kmあり、通学時間が1時間以上要する可能性。夏季・雨天時の上下校が過酷で、健康リスクも懸念される。
交通	<ul style="list-style-type: none">通学時間帯にバスが運行していない。
商業	<ul style="list-style-type: none">すでに衰退が進行しており、統合により影響は小さい。立地はいいが、市街化調整区域のため、跡地利用は難しい。
住宅	<ul style="list-style-type: none">すでに衰退が進行しており、統合により影響は小さい。

04 地区別総括

上牧第二小学校区

検討ポイント	状況
位置	<ul style="list-style-type: none">・計画どおり2校とする場合、<u>配置バランスは上牧第三小学校より優位性がある。</u>
地形	<ul style="list-style-type: none">・<u>友が丘、緑ヶ丘、下牧地区は起伏が大きく</u>、通学距離が伸びた場合の<u>通学負担が懸念される。</u>・金富・梅ヶ丘地区については、起伏の少ない通学路設定を検討。
気候・延伸距離	<ul style="list-style-type: none">・<u>上牧小学校に統合される場合は</u>、片岡台地区をはじめ、<u>通学距離・通学負担の増大は避けられない。</u>・<u>上牧第三小学校に統合される場合は</u>、<u>現在よりも通学負担が軽減される地区もある。</u>
交通	<ul style="list-style-type: none">・<u>奈良交通バスの利用が可能。</u>
商業	<ul style="list-style-type: none">・<u>すでに衰退が進行</u>しており、<u>統合により影響は小さい。</u>・市街化区域であり、跡地利用の検討は最も進めやすい。
住宅	<ul style="list-style-type: none">・<u>UR住宅の今後の整備方針に大きく影響する恐れ。</u>

04 地区別総括

上牧第三小学校区

検討ポイント	状況
位置	<ul style="list-style-type: none">1校とする場合、立地面では上牧小学校に次いで優位性がある。2校とする場合、優位性は最も低い。
地形	<ul style="list-style-type: none">服部台地区は少し起伏があるが、その他の地区については、通学負担に影響を及ぼすほどのものではない。
気候・延伸距離	<ul style="list-style-type: none">上牧小学校に統合される場合は、下牧1丁目地区が最も通学距離を要するが、松里園地区より通学負担は少ない。上牧第二小学校に統合される場合においても、2km圏内である。
交通	<ul style="list-style-type: none">一部利用できないバス停がある。通学距離が短く、バスを利用するメリットも小さい。
商業	<ul style="list-style-type: none">直近でも新規出店が目立つ状況で、統合により学校がなくなった場合に、影響を最も受けやすいと思われる。立地はいいものの、市街化調整区域であるため、跡地利用に当たり一定の制限がかかるものと思われる。
住宅	<ul style="list-style-type: none">教育環境が好影響し、住宅開発が進展した経緯がある。